

会

報

社団法人 日本病理学会  
 〒 113-0033  
 東京都文京区本郷 2-40-9  
 ニュー赤門ビル 4F  
 TEL: 03-5684-6886  
 FAX: 03-5684-6936  
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp  
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第 249 号

平成 20 年 (2008 年) 10 月刊

## 1. 技術講習会—分子病理学の基礎技術—8 の受講者の募集について

—病理を志すものが知っておくべき病理技術—

下記の要領で参加者を募集いたしています。会員諸氏にはふるってご応募されますようにご案内いたします。

記

1. 日 時: 2008 年 11 月 19 日 (水)  
第 54 回日本病理学会秋期特別総会前日 13:00-17:20
2. 場 所: 松山市総合コミュニティセンター (第 54 回秋期特別総会会場)
3. モデレーター: 北川 昌伸 (東京医科歯科大学・包括病理学分野)
4. 受講料: 5,000 円 (ハンドアウト代含む)
5. 応募, 問い合わせ, 参加決定:
  - (1) 受講希望者は, 受講を希望する旨とともに, 氏名, 所属, 会員・非会員の区別, 連絡先 (住所, 電話番号, FAX 番号, E-mail address 等) を記載の上, 以下の応募先までお申し込みください。  
 応募先: 社団法人日本病理学会事務局  
 TEL: 03-5684-6886 FAX: 03-5684-6936  
 E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp  
 内容の問い合わせ先: 北川昌伸 (東京医科歯科大学・包括病理学分野)  
 TEL: 03-5803-5173 FAX: 03-5803-0123  
 E-mail: masa.pth2@tmd.ac.jp
  - (2) プログラムの詳細につきましては, 日本病理学会ホームページ (<http://jsp.umin.ac.jp>) をご参照ください。

## 2. 前立腺癌小線源療法後 1 年以内死亡時の対応マニュアルについて

標記のことにつき, 日本放射線腫瘍学会, 日本泌尿器科学会, 日本医学放射線学会, 日本病理学会, 日本アイソトープ協会医学・薬学部会放射線治療専門委員会にてマニュアルを作成いたしました。社団法人日本アイソトープ協会のホームページに掲載されておりますのでご参照ください。

URL: <http://www.jrias.or.jp/index.cfm/6,10234,108,145,html>

以下, 重要な部分を抜粋しました。

・小線源治療後 1 年以内に患者が死亡された場合の対応  
 患者が小線源治療後 1 年以内に死亡されたという情報・連絡を家族または関係者 (保証人等) より入手した場合, 以下のフローチャートに沿って確認および手配を行う。(参考資料 3)

剖検の前には再度, 前立腺の摘出の必要性について家族または関係者 (保証人等) に説明し, 必ず文書にて同意を取る。

剖検は資格を持った病理医が行うことが原則であるが, 何らかの事情によりそれが困難な場合には前立腺摘除術に習熟した泌尿器科医が行うことができる。その場合, 全国保健所長会の通知 (全保第 53 号) に従い摘出施設管轄の保健所長の許可を得る。(参考資料 5)

上記手続きを経て, 剖検にて前立腺を摘出し前立腺ごとシード線源を取り出す。

前立腺癌小線源療法後 1 年以内死亡時の対応の主なフローチャート (参考資料 3)

- ① 家族または関係者 (保証人等) からの連絡
- ② 死因, 死亡場所等の確認 (自宅, 病院名, 所在地)
- ③ 異状死の該当有無確認
- ④ 家族または関係者 (保証人等) の剖検の同意 (最終的に文書による同意が必要)
- ⑤ 他院で死亡の場合, 当該病院での剖検の可否の確認
- ⑥ 剖検施設, 剖検医師 (病理医または泌尿器科医) の決定
- ⑦ 泌尿器科医が剖検医となる場合, 剖検施設の所轄保健所長の許可
- ⑧ 遺体の搬入
- ⑨ 前立腺摘出
- ⑩ 摘出後の剖検室のサーベイ
- ⑪ 他院での摘出の場合は自院への摘出前立腺の搬送
- ⑫ 摘出した前立腺の線源の保管廃棄

### ・泌尿器科医が剖検医となる場合の保健所長の許可について

死体の解剖を行うにあたって「死体解剖保存法」があり、同法第2条第1項の「あらかじめ、解剖をしようとする地の保健所長の許可を受けなければならない」また、同条第2項で「保健所長は公衆衛生の向上又は医学の教育若しくは研究のため特に必要があると認められる場合でなければ許可を与えてはならない」としている。(参考資料4)

全国(518保健所)すべての保健所長で組織される全国保健所長会は平成19年9月14日付け全保第53号の通知にて「前立腺癌患者へ福音と放射性物質の拡散防止に寄与することを目的に、解剖の妥当性や解剖する医師(泌尿器科医等)の適格性等を判断した上で、迅速に解剖の許可するよう」にとの通知を行なった。(参考資料5)

原則として病理医が解剖を実施するが、都合により対応が間に合わない場合は以下の手順に従って、泌尿器科医が剖検を実施できるよう手続きを行う必要がある。

剖検の許可を申し出る泌尿器科医は泌尿器科医としての病理解剖を熟知し、前立腺摘除術の一定症例以上(10例以上が望ましい)の経験を持つことが必要である。また、遺体に対する尊厳、礼儀など死体解剖にかかわる心得を持つておく必要がある。

この許可を得るための申請は各都道府県の様式に沿って行うが、解剖履歴に関する記載欄には前立腺摘除術の経験症例数を記載することで申請することができる。(参考資料6)なお、遠距離、離島など、家族の意向により自院での解剖が出来ない場合や、他院での解剖の了解が得られず自院への搬送もできない場合、解剖を実施する施設について当該地区の保健所長と相談の上決定する。

その他以下の点に留意する。

#### 泌尿器科医が解剖を行う場合の注意：

- ・医師、病院からの保健所長への連絡、相談は土・日・祝日も含めて24時間できる体制にある。
- ・解剖が必要になった場合、まず管轄の保健所長へ電話・FAXにより必ず事前連絡をすること。状況によっては書類の提出が後日でも構わない。
- ・死体解剖許可申請は各都道府県の細則により異なる為、様式は可能な限り事前に確認しておくこと。
- ・申請書の履歴詳細欄で剖検数、経験年数を記載することになっているが、泌尿器科医はそれまでの前立腺摘除術の実施症例数を記載する。
- ・自施設以外で剖検実施の際は場所の選定について、家族の意向を十分に確認することとし問題が起きないようにすること。

- ・公衆衛生上の観点から本件は適切なものであるとして「平成19年9月14日付全国保健所長会会長通知」(参考資料5)が出ている。万一、本件の申請時に許可がスムーズに得られない場合は本通知が出ていることを説明すること。また、関係者は十分に本情報を説明できるよう周知しておくこと。

ホームページタイトル

「前立腺癌治療の放射線照射器具を永久的に挿入された患者の解剖許可申請についての取り扱いについて」アドレス

[http://www.phcd.jp/osirase/zenritusengan\\_shousengen.html](http://www.phcd.jp/osirase/zenritusengan_shousengen.html)

- ・剖検後サーベイを実施し線源の脱落がないことを確認し記録に残すこと。(参考資料9)
- ・「前立腺ごと取り出したシード線源」を輸送する必要がある場合、「前立腺ごと取り出したシード線源」は速やかに輸送用の専用容器へ収納することとし、梱包表面の測定を行なった上で必要な測定記録を残す。(参考資料10)また、専門の輸送業者が自施設保管廃棄施設まで輸送する。尚、適切な輸送業者の選定等については日本アイソトープ協会または線源供給メーカーと相談すること。
- ・また「異状死」に該当する場合には、医師法第21条に準じて所轄警察署に届け出を行ない、監察医による死体検案の後に前立腺の摘出を実施する。

#### ・摘出前立腺の保管廃棄について

摘出した前立腺は一定期間各施設で保管廃棄する。保管方法については参考資料11を参照する。日本アイソトープ協会の引取りについては現在検討中である。

### 3. 常任理事会報告(7月～9月)

◎第3回(平成20年7月5日(土))

1. 「医療の安全確保に向けた医療事故による死亡の原因究明・再発防止等の在り方に関する試案第三次試案」に対する病理学会のパブリックコメントをホームページに掲載することとした。
2. 学術集会の収益事業・学会本部の収益事業の法人税を過去3年分について納付した。
3. 平成20年度の病理専門医試験受験申請者は92名、口腔病理専門医試験の受験申請者は7名である。
4. 新公益認定法人への申請を目指して更に勉強していくことを確認した。
5. 2010年秋期特別総会長および2011年春期総会会長選出の手順について検討した。会報7月号に募集記事を掲載するが、その際、秋期特別総会については(開催地は、会長所属機関と異なる利便性の高い場所

を選択することもできる)と注記することとした。

6. 液状検体 (LBC) の保険収載 (案) について長村理事長より説明があった。
7. 学術評議員制度に関するアンケート調査をすることとした (企画委員会)。
8. 100 周年記念事業について趣意書を全会員に郵送することとした。
9. 人材育成委員会によるアンケートを行なうこととした。
10. 第 3 回 (平成 21 年) サマーフェストについてプログラム案の提示があったので、検討した。
11. 本年度病理学カンファレンス (湘南) の準備進捗状況の報告があった。
12. 本年度病理技術講習会 (秋期特別総会時) について準備状況の報告があった。
13. 第 98 回総会 (京都) コンパニオンミーティング募集記事を会報に掲載することとした。
14. Pathology International のインパクトファクターが 2007 年は 1.371 であった。
15. 病理診断講習会委員候補者の提案を病理専門医制度運営委員会に諮ることとした。

#### ◎第 4 回 (平成 20 年 9 月 3 日 (水))

1. 新公益法人化に向けての文科省主催の説明会に大菌事務局長が出席し、その報告があった。例えば、一般社団法人も税務上は 2 種あり、一般社団法人 (非営利型) について説明を受けた。
2. 人材育成委員会によるアンケートについては 9 月 3 日現在 668 通/4,070 の回答がある。
3. 2010 年秋期特別総会長および 2011 年春期総会会長選出については会報 7 月号に募集記事掲載中である。
4. 来年度病理学会カンファレンスについて世話人の加藤光保教授 (筑波大学) よりプログラム案の提示があった。

5. 日臨技からの病理標本精度管理についての提案があったので、精度管理委員長の羽場礼次先生と協力してもらうこととした。
6. 社会保険委員会のアンケート案を検討し、若干の修正を依頼することとした。
7. 国際交流事業について国際交流委員会からの提案を検討した。11 月の委員会および理事会にてさらに検討してもらうこととした。
8. 海外派遣事業の報告書 (中山崇先生) が届いたので、会報に掲載することとした。
9. 機構検討委員会 (仮称) として、11 月の企画委員会に向井清理事の出席を依頼することとした。
10. 100 周年記念事業については全会員に趣意書を送り、記念事業の提案も受け付けている。現在まで数件の提案が届いている。
11. 第 2 回 (2008 年) サマーフェストの報告書が真鍋委員長より提示された。第 3 回 (2009 年) は 8 月 29 日 30 日に東京大学にて開催される。今後は東京・京都で交互に開催される予定である。第 4 回 (2010 年) のテーマはリンパ腫を予定している。
12. Pathology International のオンライン化にともなう刊行費のディスカウント案がワイリー・ブラックウェル社より提示された。内容についてさらに詳しい説明を求めることとした。
13. 本年度試験についての報告が黒田病理専門医制度運営委員長よりあった。

#### お詫び (訂正)

会報 248 号 (平成 20 年 9 月刊) に掲載いたしました第 26 回 (2008 年度) 日本病理学会病理専門医試験報告に誤りがありました。8 頁表 4 試験 I-25 の写真数が 23 枚となっておりますのは、2 枚の誤りです。お詫びして訂正いたします。



# 日本医学会だより

JAMS News

2008年10月 No. 40  
日本医学会

## ◆第135回日本医学会シンポジウム

「腎と全身疾患—CKDをめぐる最近の話題—」をテーマに、2008年12月4日(木 13:00~17:00)、日本医師会大講堂において開催する。組織委員は、富野康日己、伊藤貞嘉、榎野博史の各氏。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://www.med.or.jp/jams/>)にて、申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、Web上に映像配信される。

- ・序論：なぜ今CKDが注目されているのか—わが国のCKD対策のあゆみと今後の展望/榎野博史(岡山大・腎・免疫・内分泌代謝内科学)
- ・CKD診療ガイドと日本人のGFR推算式/松尾清一(名大・腎臓内科学)
- ・心血管イベントとアルブミン尿の重要性/柏原直樹(川崎医大・内科学(腎))
- ・糖尿病性腎症対策の最近の知見/鈴木芳樹(新潟大・保健管理センター)
- ・高血圧とCKD/木村玄次郎(名市大・心臓・腎臓内科学)
- ・腎炎・ネフローゼ・血管炎/今井圓裕(大阪大・老年・腎臓内科学)
- ・地域医療連携とCKD重症化予防のための戦略研究(FROM-J)/山形邦弘(筑波大・腎臓病態内科学)

## ◆医学賞・医学助成費の決定

選考委員会を9月10日に開催し、平成20年度の日本医師会医学賞・医学研究助成費の授

賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞19、助成費63を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、助成費は15件を授与される。

選考の結果は下記のとおり。

### 〈日本医師会医学賞〉

- ・新規融合型チロシンキナーゼを標的とした肺がん分子診断法・分子標的療法の開発/間野博行(自治医大・ゲノム機能研究部)
- ・国民を代表する集団の長期追跡調査による動脈硬化性疾患予防のための研究：NIPPON DATA 80・90/上島弘嗣(滋賀医大・公衆衛生学)
- ・腸管局所免疫機構の解明に基づく炎症性腸疾患に対する新しい治療法の開発/日比紀文(慶大・消化器内科学)

### 〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・炎症による発ガンモデルの構築/中野裕康(順天堂大・免疫学)
- ・術後腸管癒着の免疫学的発症機序の解析と制御法の開発/善本知広(兵庫医大・免疫学・医動物学)
- ・新規免疫抑制性サイトカインIL-27による免疫制御機構の解明と治療応用/吉田裕樹(佐賀大・分子生命科学)
- ・心臓特異的ミオシン軽鎖キナーゼ(cardi-

- acMLCK) の機能解析による心不全の分子機構の解明/高島成二 (阪大・分子心血管医学)
- ・自己免疫疾患の病態解明/松本 満 (徳島大疾患酵素学研究センター・免疫情報医学)
  - ・アジアにおける新出現型ヒトロタウイルスの蔓延に関する分子疫学的研究/小林宣道 (札幌医大・衛生学)
  - ・緑茶ポリフェノールと要介護・死亡リスクとの関連に関する血清疫学研究/辻 一郎 (東北大・公衆衛生学)
  - ・医師の地域間偏在に関する探索的研究/前沢政次 (北大・医療システム学)
  - ・顆粒球コロニー刺激因子 (G-CSF) による急性心筋梗塞治療の臨床的研究/高野博之 (千葉大・循環器内科学)
  - ・新規の脳内摂食調節物質の同定と治療応用研究/中里雅光 (宮崎大・神経呼吸内分泌代謝内科学)
  - ・遺伝子改変マウス作製による 2 型糖尿病の分子メカニズムの解明/窪田直人 (東大・糖尿病・代謝内科学)
  - ・甲状腺濾胞癌の術前低侵襲診断法の確立/高野 徹 (阪大・臨床検査診断学)
  - ・新生児 TSS 様発疹症における免疫寛容誘導に対する制御性 T 細胞の役割の解析/高橋尚人 (自治医大・小児科学)
  - ・組織再生技術と生体内吸収性材料を応用した新規ハイブリッド型再生椎間板の開発応用/小谷善久 (北大・整形外科)
  - ・子宮内膜幹細胞を標的にした子宮内膜症の病因メカニズムの解明と新しい治療法の開発/丸山哲夫 (慶大・産婦人科学)

### ◆診療関連死の死因究明制度創設に係る公開討論会

平成 20 年 7 月 28 日に、主催：日本医学会、協賛：日本医師会、日本病院団体協議会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本薬剤師会の各団体で公開討論会を日本医師会館大講堂におい

て開催した。

討論会では、主に、厚生労働省から 6 月に出された「医療安全調査委員会設置法案 (仮称) 大綱案」を下に、日本内科学会、日本外科学会、日本救急医学会、日本麻酔科学会、日本医師会、全日本病院協会の代表者から講演をいただき、続いて総合討論を開催した。総合討論会では、種々の意見があった。

### ◆日本医学雑誌編集者会議

今年度の新規事業として、「日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) ならびにシンポジウム」を北村聖組織委員長 (東大医学教育国際協力研究センター教授) の下、8 月 1 日に開催した。日本医学会分科会 105 学会中 94 学会の学会誌編集者が出席した。10 月中には、本会ホームページに編集者会議の内容を掲載予定。

この度、日本医学雑誌編集者会議 Japanese Association of Medical Journal Editors (JAMJE) を設置した背景には、WHO 西太平洋地域医学情報データベース日本委員会 (WPRIMJ) にて医学雑誌の質の向上のために編集者間の意見交換の必要性が挙げられたことに端を発している。また JAMJE の目的としては、1) 医学雑誌と編集者の自由と権利の擁護、2) 医学雑誌の質の向上への寄与、3) 著者と医学雑誌・編集者の倫理規範の策定、4) 海外の編集者会議との連携等である。今後継続して活動していく。

### ◆日本医学会臨床部会運営委員会

臨床部会会議は臨床系の 73 学会を参集し、平成 20 年 10 月 8 日に開催を予定しているが、その活動の核になっている臨床部会運営委員会では、今年度、医療事故の死因究明、中立的第三者専門機関の設置、臨床研究における被験者の保護と倫理の確保について等の問題を検討し、3 つの声明を發した。詳細はホームページのお知らせをご覧ください。